

あとがき

最後の最後に、感謝の言葉で終わりたいと思います。

まず、国際学生 VR コンテスト「IVRC」に関わったみなさんに感謝です。小坂氏との出会いも IVRC でしたし、卒業生も数多くゲーム業界に就職しています。ネットや紙面では紹介できないような温かな Face2Face のコミュニティを長年 IVRC を支えていただいている実行委員長の館教授（東大、現慶應大）をはじめ、ボランティア学生のみなさん、作家のみなさんに感謝です。

そして、「任天堂へのみなさん」に感謝です。本書はハッキングを目的とした書籍ではありません。ゲーム業界の明日を底から支えるための書籍になるよう、執筆したつもりです。歴史に残る革命、「真の価値ある開発」を行ったのはまぎれもなく任天堂のみなさんです。本書は、その技術を歴史の一部を語る立場で解説させていただきました。本書の読者が、「アンダーグラウンドなハッキング」ではなく日本のゲーム文化を技術面から支える基盤研究力になって行くことを望んでいます。もし、本書の読者が任天堂やサードパーティの就職面接に来たときは、彼らを温かく見守っていただければ幸いです。

そして、「読者の未来に感謝」したいと思います。フランスから3年間、日本をナナメから見ていた筆者は、ゲーム産業やインタラクション技術の最先端に行く日本がうらやましくて仕方がなかったです。これは欧米の学生に共通の感覚なのです。

この本を手にとって、最後まで読破されたあなたはもう、ゲームに使われているインタラクティブ技術を「ただの遊び」とは思わなくなっているでしょう。そして、その先の未来には、自分の足もとからまっすぐつながった「道」が見えるはずです。その道を一步一步自分で進むための、プログラミングと考え方という「最初の武器」を、本書は授けたはずです。

がんばってください。またお逢いしましょう！

本書のサポート

URL <http://akihiko.shirai.as/projects/WiiRemote/>

※また、Google Groupsで質問を受け付けています。

2009年8月、ホームタウンのマクドナルドのいつもの席で

白井暁彦

謝辞

この本を書き上げるにあたり、数多く方々にお世話になりました。まず、ゲーム産業に歴史的革命を与えた任天堂の開発者のみなさんには、文字通り言葉にできない感謝の気持ちを伝えたいと思います。そして遅筆な筆者を叱咤激励しながら辛抱強く編集を進めていただいた大内さん、オーム社の宇津さん森田さん。

また、共著者のみなさん。特に「ウチの学生にわかる本にして!」としてC#.NET編を大幅に膨らませていただいた金沢高専の小坂崇之さん、楽しいプロジェクトを書き下ろしていただいた「くるくる研究室」の尾崎さん、原さん。Processing編に加えてコードレビューで協力をいただいた木村秀敬さん。またボランティアでお付き合いいただいた高橋誠史さん、南澤孝太さん、井村誠孝先生、平野実花さん。ステキな表紙イラストを描いていただいたタナカユカリさん。

そして最後に、激烈な昼間の仕事の合間の数少ない休暇、貴重な家族との時間の削減に文句をいいながらも執筆やコーディングを応援してくれた妻・久美子、息子の成彦と隆佳に、愛と感謝を伝えたいと思います。